

# 1分1秒を争う原発事故

## 安全協定結び、平常時にしつかりとした避難体制を

今なお放射能被害が続く東京電力・福島第一原発事故。事故は地域社会を丸ごと存続の危機に追い込んでいます。

佐藤雄平福島県知事は、県民を守り、若者や子どもたちが安心して暮らせる福島県の復興のために原発がない県を目指し、「原発事業団と国に県内原発を全基廃炉にする」ことを求めることを復興計画に明記しました。

安江ゆうこ市議は昨年11月20日に行われた原子力防災訓練について質問しました。



防災訓練

方は、どういうふうにして小学校区の避難場所に来ると想定されていますか。

**総務課長** 要支援者の避難計画については、福祉事務所を中心に計画に当たっている。地域支援グループというものをつくっていただき、避難集合場所まで移動させるようなことで、今計画が立っているという、策定中です。

**安江** 自主避難は自家用車で市が指定する避難先に行くようになっていきます。特に鷹島町、福島町からの避難は佐賀県の避難の方と合流してまいります。鷹島大橋と福島大橋などで車を止めて市の職員が行き先や連絡先を書いた用紙を配るとなっていますが、

**安江** 在宅で寝たきりの方とか、在宅酸素をされている

1分1秒、放射能から逃れたいなかで、それは難しいのではないですか。

**総務課長** そこはやはり皆さんお急ぎになるという心理は大変わかります。ただ、市としては避難先の案内、安否の確認というのは必要です。避難経路と想定される場所にはチェックポイントを設けて、避難先の案内、避難先の情報等をいただけるような配慮は必要と考えます。

**安江** そうであったら、避難の案内というのは、平常時にこのどなたはこんなんですと、きちんとしておくべきです。そこをもう一回検討し直してください。

### 消防職員を国の整備指針の方向で増員を

消防の役割は市民の生命と財産を守ること。安江ゆうこ市議は、「日夜、命がけで任務を行われていることに対し、敬意を表します」と述べて、消防職員の増員を求めました。

**安江** 松浦市の規模で消防の国の整備指針はどうなっ



消防出初め式の様子

いますか。

**市長** 平成12年に消防庁が示した数字は、松浦市消防本部としては110名です。

**安江** 松浦市にははしご車がなくて化学車もありません。この2台をいれると必要人員110名と24名足りて134名となります。今実際おられるのは65名です。防災計画を考える上で、やっぱり

### 「太陽光発電の補助」制度は24年度中に設計

「太陽光発電の補助」について昨年9月議会に続いて12月議会でも質問した安江ゆうこ市議。

まちづくり推進課長は、「県内各自治体では10万円以内で数万程度の助成がなされている。24年度中に制度設計を行いたいと考えている」と答えました。

国の整備指針に沿って1人でも2人でも消防の方に人員を配置できるように検討していただきたいと思えます。

### 原発を稼働させないことが最も安全な道

「原発がある限り事故は起こる」と、福島原発事故は証明しました。安江ゆうこ市議は九電に原発の廃炉を求めることを市長に質問しました。

**安江** 訓練をどれだけ上手に行っても原発がある限り事故は起こります。原発を稼働させないことが最も安全な道だと考えます。

**市長** 九電は現在6基の原発施設を持っており、住民の生活、産業活動、あらゆる面でこの電気エネルギーが果たしている役割は大きいものが



### 福島町一周駅伝大会

2012年1月8日、福島町駅伝大会があり、安江ゆうこ市議も応援にかけつけました。今年の大会は58回目、雪も降らず、ひどい風もなく、絶好の駅伝日和。「これまで、主催された役員の皆様、ご苦労様でした。地域を盛り上げ守るという意識が58回達成を成していると思えます。今後も皆様の力で59、60回と回を重ねられる事を願います」と、感想をのべる安江ゆうこ市議。

あろうと思っています。そういうことをしっかりと確認しながら、国においてもエネルギーの基本計画が見直されていますし、再生可能エネルギーへの転換についても議論されています。

私としては再生可能エネルギーでの新たな電力は確保していく方向性が大事ではないかと思っています。将来的には減原発から脱原発の方向性に向かっているのが望ましい姿ではないかとの思いを持っています。

**安江** 総務委員会でも京都府の舞鶴に行きましたが、福井県の原発と舞鶴市が安全協定を結んでいます。県と九電に対して市民の意思、意見を伝えて安全協定を結ばれるように求めます。